

中部「航空産業」に 英企業が挑む

名古屋に“拠点”法人

英国の熱処理受託加工企業、ボディコートが二日、日本法人のボディコート・ジャパンを名古屋市に設立したと発表した。

製造業の集積する中部地方を日本進出の拠点に選んだ。三菱重工業が事業化する小型旅客機MRJ（三菱リージョナルジェット）関連の受注にも関心を示している。

同社は三十五カ国に拠点をもち、総従業員数は約一

国産ジェットに関心



ボディコートのジョン・ハーバード最高経営責任者＝名古屋市で

万人。自動車、航空機などのメーカーから熱処理加工や車両試験などを受託する。

海外の日系企業とも年間五千万〜七千万ドルの取引がある。二〇〇七年度の売上高は約千四百二十億円。アジアでは五カ国目の進出になる。

名古屋市内で会見したジョン・ハーバード最高経営責任者は「MRJの仕事もしたい」と具体的な事業目標を語った。

日本法人の事務所は同市西区の名古屋ルーセントタワーに置く。二年以内に中部地方で工場の買収または新設をし、一〇年にも稼働させる。

十年間に国内で十カ所の工場を設け、それぞれ五十〜七十人を地元で採用する方針。

各工場で五億円程度の売り上げを見込む。